

木更津工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	微分積分 I B	
科目基礎情報							
科目番号	g0410			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	情報工学科			対象学年	2		
開設期	後期			週時間数	4		
教科書/教材	教科書：高遠ほか著『新微分積分 I 改訂版』大日本図書、2021年、1700円（＋税），補助教材：高遠ほか著『新微分積分 I 問題集 改訂版』大日本図書、2021年、900円（＋税）						
担当教員	田所 勇樹,菰田 智恵子						
到達目標							
関数の不定積分と定積分を求められる。 積分法の応用として、図形の面積、曲線の長さ、体積、媒介変数表示、広義積分の問題が解ける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	関数の不定積分・定積分に関する応用的な問題を解くことができる。			関数の不定積分・定積分に関する基本的な問題を解くことができる。		関数の不定積分・定積分に関する基本的な問題を解くことができない。	
評価項目2	置換積分法と部分積分法を用いて応用的な問題を解くことができる。			置換積分法と部分積分法を用いて基本的な問題を解くことができる。		置換積分法と部分積分法を用いて基本的な問題を解くことができない。	
評価項目3	図形の面積、曲線の長さ、体積、回転体の体積・表面積、媒介変数表示、広義積分と言った微分の応用的な問題を解くことができる。			図形の面積、曲線の長さ、体積、回転体の体積・表面積、媒介変数表示、広義積分と言った微分の基本的な問題を解くことができる。		図形の面積、曲線の長さ、体積、回転体の体積・表面積、媒介変数表示、広義積分と言った微分の基本的な問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
準学士過程 2(1)							
教育方法等							
概要	前半は、関数の不定積分・定積分と言った基本的な概念および公式を学ぶ。後半は、図形の面積、曲線の長さ、体積、媒介変数表示、広義積分と言った積分の応用を学ぶ。						
授業の進め方・方法	授業は講義形式、演習が交差しながら進んでいく。						
注意点	微分積分IBは2年生以降に学ぶ数学や科学と密接に関係し、その土台となる重要な内容である。関数に関係する新しい計算手法が多く導入されるため、内容の定着を確実にするためには、授業だけでは不十分で、自分で問題を解くということが重要である。 また、対面授業から遠隔授業などに実施形式が止むを得ず変化した場合は評価割合を変更する可能性もある。評価方法の詳細は授業にて説明する。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	不定積分			不定積分の概念を理解し、基本的な計算ができる。	
		2週	定積分の定義、微分積分法の基本定理			区分求積法による定積分の定義、微分積分法の基本定理をを理解し、基本的な計算ができる。	
		3週	定積分			定積分の概念を理解し、基本的な計算ができる。	
		4週	置換積分法と部分積分法			置換積分法を理解し、基本的な計算ができる。	
		5週	置換積分法と部分積分法			部分積分法を理解し、基本的な計算ができる。	
		6週	置換積分法と部分積分法			置換積分法と部分積分法の応用を理解し、基本的な計算ができる。	
		7週	置換積分法と部分積分法			置換積分法と部分積分法の応用を理解し、基本的な計算ができる。	
	8週	中間試験					
	4thQ	9週	試験返却・解答 面積・曲線の長さ・体積			積分によって図形の面積を求められることを理解し、基本的な計算ができる。	
		10週	面積・曲線の長さ・体積			積分を用いて曲線の長さを求められることを理解し、基本的な計算ができる。	
		11週	面積・曲線の長さ・体積			積分を用いて立体の体積を求められることを理解し、基本的な計算ができる。	
		12週	面積・曲線の長さ・体積 積分法の様々な応用			積分を用いて媒介変数表示の図形の面積、曲線の長さ、体積を求められることを理解し、基本的な計算ができる。などについて学ぶ。	
		13週	積分法の様々な応用			積分を用いて極座標で与えられた関数のグラフの囲む面積、グラフの長さを求められることを理解し、基本的な計算ができる。	
		14週	積分法の様々な応用			広義積分、変化率と積分を理解し、基本的な計算ができる。	
		15週	定期試験				
16週		試験返却・解答					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100

基礎的能力	50	0	0	0	0	50	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0